

氏名	中 川 三 郎
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	博 乙 第 2206 号
学 位 授 与 の 日 付	平成 2 年 12 月 31 日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	好塩基球の反応性に関する研究 第 1 編 抗原，抗ヒト IgE 刺激時の好塩基球の経時的形態的変化とヒスタミン遊離 第 2 編 Ca. ionophore A 23187 刺激時の好塩基球の経時的形態的変化とヒスタミン遊離
論 文 審 査 委 員	教授 太田善介 教授 佐伯清美 教授 辻 孝夫

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

ハウスダストアレルギーを有するアトピー型気管支喘息患者 9 症例の末梢血好塩基球に，抗原および抗ヒト IgE 血清を添加し，May Giemsa 染色下の塗抹標本における形態的変化とヒスタミン遊離を経時的に検討した。ヒスタミンはハウスダストあるいは抗ヒト IgE 血清添加後急激に遊離され，それにともない好塩基球数の減少，平均直径および長径／短径比の増大，好塩基性顆粒の減少が観察された。抗原刺激は抗ヒト IgE 刺激に比べ，急峻な反応を示した。

アトピー型気管支喘息患者 11 症例の末梢血好塩基球に Ca. ionophore A 23187 を添加し，May Giemsa 染色下の塗抹標本における形態的変化とヒスタミン遊離を経時的に検討した。Ca. ionophore A 23187 刺激後，経時的にヒスタミン遊離は増加し，それにともない好塩基球数の減少，好塩基球の平均直径の増大，好塩基性顆粒の減少が観察された。Ca. ionophore A 23187 刺激による反応では，長径／短径比の増大傾向がまったく認められず，このことは，好塩基球の運動能が変化しないことを示唆している。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究はハウスダストアレルギーを有するアトピー型気管支喘息患者 9 症例の末梢血好塩基球に，抗原および抗ヒト IgE 血清を添加し，またアトピー型気管支喘息患者 11 症例の末梢血好塩基球には Ca. ionophore A 23187 を添加して，May Giemsa 染色下の塗抹標本における形態的変化とヒスタミン遊離を経時的に検討したものである。その

結果両者には密接な関係があることが明らかになった。これはヒスタミン遊離に関する価値ある業績であり，よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。